

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)	良く なっている	百貨店（服飾品 担当）	単価の動き	・消費税率引上げ直後の落ち込みから、都心型店舗はすぐに売上が回復し、郊外型店舗もほぼ増税前と変わらない動きとなっている。10月初旬の高気温の影響や、台風による影響を除けば、防寒商材（マフラー、帽子、ブーツ）が前年比104%、消耗品（化粧品）が106%と概ね好調であり、嗜好品（アクセサリー、バッグ）も104%と、輸入商材を中心に高額品もよく動いている。この傾向はクリスマス商戦まで継続しそうな勢いであり、単価が高くても新作の発売を待っている客の声、各売場で聞かれる。
		観光型旅館（経 営者）	来客数の動き	・忘年会、新年会の予約状況が好調である。
	やや良く なっている	一般小売店〔事 務用品〕（経 営者）	販売量の動き	・消費税増税後の悪化も落ち着いて、各種商品は売行きが戻ってきている。
		一般小売店〔鮮 魚〕（営業担 当）	販売量の動き	・仕入数量は前年比で5%ほど伸びている。これは外国人観光客による消費の増加が大きく影響している。
		百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・10月から店舗のリニューアルで、食料品以外は部分改装し、耐震工事も行った。来客数の前年比は前月のマイナス5%からプラス2%となり、前年を上回ってきている。
		百貨店（売場主 任）	販売量の動き	・台風の影響で目標売上には達していないものの、外国人観光客向けの免税対象商品の拡大により、化粧品などの身の回り品や食料品を中心に、前年の売上を上回っている。
		百貨店（企画担 当）	お客様の様子	・今月の売上に占める外国人売上の割合は、前年の4%強から10%強に上昇した。消費税増税による売上の減少はいまだに継続しているものの、外国人売上の急激な増加により、全体では増収となっている。
		百貨店（営業担 当）	単価の動き	・宝飾品や美術品、高級呉服など、高額品が売れ出ししている。資産家の高齢者層が、お金を物に変えて、子や孫に残そうとする傾向が増えてきたように感じる。
		百貨店（商品担 当）	来客数の動き	・心齋橋ではアジアからの観光客が増え続けており、化粧品や雑貨の一部は売上がかなり好調である。
		スーパー（店 長）	お客様の様子	・客単価、来客数共に好調で、購入商品の質も落ちていない。
		スーパー（社 員）	単価の動き	・足元の客の購入態度をみていると、価格と商品の中身をしっかりと見極めて、良い物は積極的に購入しようとする意欲がみられる。夏以降はこのような傾向が続いており、生鮮食品を中心とした店頭価格の上昇と重なり、客単価を押し上げている。
		コンビニ（経 営者）	来客数の動き	・例年よりも気候の変化が急であり、いきなり涼しくなったため、アイスコーヒーの売上が落ちたものの、ホットコーヒーに切り替えた後は売上が増えている。
		コンビニ（経 営者）	単価の動き	・おにぎりや弁当、ファストフード、デザート類などの食料品を中心に、プレミアム商品の売上が相変わらず好調に推移しており、客単価が上昇傾向にある。
		乗用車販売店 （経営者）	お客様の様子	・年に6回イベントを行うが、入場者数が昨年、一昨年と比べてやや多くなっている。今後もこの安定した状態が続く。
		高級レストラン （企画）	来客数の動き	・海外からの需要の増加が引き続きみられる。
		一般レストラン （経理担当）	お客様の様子	・台風や豪雨などの災害を除けば、法人の宴会や外国人客の利用件数が堅調に伸びている。
		一般レストラン （企画）	販売量の動き	・10月は台風の影響があったものの、販売量は他地域と比較しても好調な結果となっている。また、売上も6月以来、既存店では前年を上回る水準となっている。
		観光型ホテル （経営者）	競争相手の様子	・地区内の同業者の話を聞くと、かなり良くなってきている。来客数も増えており、宿泊単価を上げているホテルもある。
観光型旅館（経 営者）	来客数の動き	・台風の影響が大きかったものの、客はよく動いている。		

	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊の好調が継続している。平日はビジネス客やアジアからの外国人団体客が多く、週末は国内の個人観光客で満室状態であり、単価も着実に上がっている。一方、宴会部門の売上は前年を大きく上回っているが、改装工事の終了などで受注機会が単純に増加しただけで、景気動向とは関係のない動きである。
	都市型ホテル (客室担当)	販売量の動き	・従来のビジネス客以外に、観光で宿泊する家族客やカップルが増えるなど、余暇にレジャーを楽しむ人が増加している。
	通信会社(社員)	来客数の動き	・年末に向けて4Kテレビなどの動きが活発化しつつあるのに伴い、販売量も増えつつある。
	その他レジャー施設[イベントホール](職員)	それ以外	・3連休の初めの2日は天気が悪く、観光客の動きも低調であったが、最終日は持ち直し、奈良ではかつてないほどの観光客と他府県からの車の数となった。朝から晩まで渋滞続きとなり、ロードサイドの飲食店は軒並み満員であった。消費者は機会をみつけて積極的に消費しようとしている。
	住宅販売会社 (経営者)	来客数の動き	・客の積極的な動きがみられるなど、具体的にアクションを起こそうとしている客が増えている。
	その他住宅[展示場](従業員)	来客数の動き	・10月の住宅展示場の来場数は回復傾向にあり、前年比で増加している。
変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き	・月中旬の台風による影響が大きく、売上が昨年を下回っている。
	一般小売店[菓子](経営企画担当)	販売量の動き	・10月と7月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は10月が104.4%で、7月が93.7%、関東は10月が94.2%で、7月が91.4%、中部は10月が67.1%で、7月が83.4%、中国は10月が116.0%で、7月が78.5%となり、各地区合計の平均は10月が96.4%で、7月が88.0%となっている。全国的に悪い状態が続いているものの、最悪のお中元商戦時に比べると、徐々にではあるが良くなっているように感じる。ただし、予断は許されず、依然として厳しい状態が続いている。
	一般小売店[衣服](経営者)	販売量の動き	・販売量は昨年に比べて減っている。ただし、来店した消費者の様子をみると、以前のような景気の悪さを感じない。単純に安価な物が売れるというわけではなく、消費者が納得した商品であれば高価な物でも売れる。
	一般小売店[野菜](店長)	お客様の様子	・なかなか飲食関係の動きが良ならず、当店も厳しい状況が続いている。
	一般小売店[花](店長)	それ以外	・夏の天候不順による不作の影響をまともに受け、販売価格がかなり高騰している。
	百貨店(売場主任)	販売量の動き	・外国人観光客の増加で、来客数は前年比で増加が続いているものの、売上は8~10月の合計で前年と同水準となっている。外国人客の効果を除くと、若干前年を下回る状況である。
	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・まだまだ消費自体は低調であり、所得も低迷している。台風の被害も多く、その復旧は長期にわたる場合もあり、国による対策が必要となっている。目にみえる部分よりも、みえない部分への対策が必要であり、特にスピードが求められている。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・今月は台風の影響や、前月に秋物商品が前倒しで売れたこともあり、目標の達成は難しいが、外国人観光客向けの売上増により、前年実績は確保できそうである。ただし、アパレルへの支出が増えたときには、雑貨への支出を抑える傾向があるなど、客の消費が増えているという実感はない。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・生鮮食品の動きに変化がないほか、気温がまだ下がっていないため、冬物衣料の動きも鈍い。
	百貨店(販促担当)	販売量の動き	・今月は台風が直撃した影響を除けば、各指標が前年を上回っている。特に、定価品が堅調に推移しており、気候の変化に伴って商品が動いている。ただし、セール品については客の動きが固く、雰囲気にならされて購買することはない。
百貨店(サービス担当)	お客様の様子	・今月も来客数は前年を大きく上回っているが、レジ客数には来客数ほどの伸びがなく、前年の売上の確保に苦戦している。また、秋恒例の物産催事も、他店と開催期間が重なる傾向があり、客の分散によって前年実績の確保に苦労している。	

百貨店（商品担当）	販売量の動き	・部門ごとや週ごとの動きには好不調があり、全体的に決して好調とはいえない。都市部の店舗に比べて、郊外や地方の店舗はなかなか不調から脱しきれていない。
百貨店（売場マネージャー）	販売量の動き	・今月は台風という天候要因もあるが、秋らしい陽気が続いた割には、ファッション関連を中心とした販売量は前年を下回っている。特に、身の回り品が苦戦している。食品関連も前月と同じく、青果を中心とした生鮮食品の苦戦が続いている。客の動きでは、ボリューム層の来店が減少している。
百貨店（外商担当）	販売量の動き	・高額なダイヤモンドの指輪など、宝飾品の受注が数点出てきているが、季節の変わり目であるにもかかわらず、婦人服の売上は期待したほど伸びていない。
スーパー（店長）	単価の動き	・消費税増税前から、普段よりも少し良い物を購入するスタイルが定着してきている。その代わりに余分な物は極力節約するため、買上点数が減少し、単価の上昇ではカバーできない状況が続いている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・動きの良かった衣料や住居関連の季節品の動きが鈍くなり、苦戦している。食品や消耗品の販売量も伸びず、全般的には単価が少し上昇し、販売点数が大幅に減少する形となっている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・引き続き生鮮食品を中心に売上は堅調であり、月上旬の天候不順の影響も限定的である。
スーパー（企画）	販売量の動き	・食品は堅調に推移しているが、これまで好調であった衣料や住居関連品では、消費が足踏みしている様子である。これから更に気温が低下すると、活発になると予想される。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は気温の変化や天候に左右されて、売上の伸びない日もあったが、それ以外では販売量や客の様子に大きな変化は感じられない。
コンビニ（店員）	販売量の動き	・直営店になって1年になるが、赤字の状態をなかなか脱出できない。
コンビニ（広告担当）	お客様の様子	・景気の停滞が続いている感はぬぐえない。客の日常の消費もシビアであると感じる。
衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・消費税の再増税の件で、様子見の客が増加している。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・来客数に関しては前年とあまり変わらないが、販売量は前年が消費税増税の影響で増えたことを除いても、少し少ない。
乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・午前、午後共に、一部の時間帯に来客が集中しており、全体の来客数が増えない。
その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・生活に密着した商品を販売しているが、必要数量しか購入しないほか、比較的価格の低い商品が優先的に購入される。
その他専門店【宝石】（経営者）	お客様の様子	・今年4月から消費税率が8%に上がり、様々な商品が値上がりしているため、その影響で客の消費意欲がマイナスになっている。
その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・特に変化はなく、良くも悪くも動きがない。
その他専門店【宝飾品】（販売担当）	競争相手の様子	・売上の安定している同業者がみられない。
その他専門店【スポーツ用品】（経理担当）	販売量の動き	・消費税率の引上げによる停滞感が慢性化している。
一般レストラン（店員）	お客様の様子	・週ごとに雰囲気は変わるが、大きな変化はない。ただし、固定客には人事異動などで多少動きがある。
スナック（経営者）	来客数の動き	・長く続けているので、こちらが動けば来店してもらえる。客層も変わらず、良くも悪くもない状態が続いている。
その他飲食【コーヒーショップ】（店長）	来客数の動き	・消費税増税後、客単価は上昇しているが、来客数の減少幅は月を追うごとに大きくなっている。税抜売上では前年を下回る状況が続いている。
観光型旅館（経営者）	単価の動き	・今月前半は台風などで客足にも影響があったものの、行楽シーズンでアウトドアでの利用や、スゴツの合宿での利用は前年よりも増えている。客単価もここ数か月は横ばいとなっている。

都市型ホテル (総務担当)	来客数の動き	・宿泊客の増加が続き、好調を保っている。客室稼働率は曜日に関係なく高稼働となっており、特に海外からの旅行客の増加が大きい。	
都市型ホテル (マネージャー)	来客数の動き	・客室部門については、円安の影響などで中国や台湾といった海外からの客は増えている。ただし、消費税増税の影響が、そのほかの部門では客が減少している。	
旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・法人需要は堅調であるが、一般の消費はなかなか上向いてこない。	
タクシー運転手 通信会社(経営者)	お客様の様子 お客様の様子	・流し営業での売上が順調に推移している。 ・公共事業などで建設業は好調であるが、物価の上昇により個人消費では買い控えが進んでいる。	
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・来客数の変動はあまりないが、内訳が多少変わってきているように感じる。外国人客が明らかに増えているものの、今後の動きが読めないで、当てにはできない。	
パチンコ店(店員)	お客様の様子	・客の滞在時間が短くなっている。	
競艇場(職員)	単価の動き	・単価の動きは、3か月前と比較して横ばいの状態である。	
その他レジャー 施設[飲食・物 販系滞在型施 設](企画担 当)	販売量の動き	・昨年に比べると、購買率や消費単価はやや悪化している。	
美容室(経営者)	来客数の動き	・固定客しか受け付けていないので、大きな変化はない。	
美容室(店長)	お客様の様子	・最近では化粧品をインターネットで購入する人が増加するなど、節約志向が強まっている。	
美容室(店員)	販売量の動き	・パーマとカットをオーダーする客に比べて、カットのみの客が増えている。	
その他サービス [ビデオ・CD レンタル](エ リア担当)	販売量の動き	・映像や音楽レンタルの売上減少を、コミックレンタルや書籍、文具の売上でカバーし、前年の水準を維持している。	
住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・住宅建材や設備などの値上がりも落ち着き、客への対応がしやすくなっている。	
住宅販売会社 (総務担当)	販売量の動き	・消費税率10%への引上げを見据えた駆け込み需要の動きは、まだみられない。	
その他住宅[情 報誌](編集 者)	お客様の様子	・新築マンションの販売価格は着実に上昇しているが、購入検討者の動きは大きく悪化しているとはいえない。物件によって販売の好不調はあるものの、景況感の悪化の影響を受けている印象はない。	
やや悪く なっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・消費税増税をきっかけに客が必要な物だけを買うようになり、ついで買いがなくなったため、買上点数が減っている。その結果として売上が減少しているが、来客数の増加で対応すべきか、単価の上昇で対応すべきかは迷うところである。
	一般小売店[珈 琲](経営者)	販売量の動き	・原料相場の上昇や円安の影響で、調達価格が高騰している。
	一般小売店[精 肉](管理担 当)	それ以外	・牛肉の相場が高騰しているが、需要の増加による高騰ではないという報道もある。今店頭で動いているのは、おかず用の肉であり、高級品の動きは鈍いなど、客の財布のひもが緩んでいる感覚はない。今月はスポット的なイベントで販売量は増えたものの、根本的には悪いと感じている。
	一般小売店[衣 服](経営者)	お客様の様子	・秋の発表会に必要な商品は売れるが、じわじわと景気は悪くなってきている。
	一般小売店[家 具](経営者)	販売量の動き	・家具の専門店であるが、量販店に客が流れている。
	百貨店(企画担 当)	お客様の様子	・台風の影響などもあり、売上は不調が続いている。また、気温が下がっている割に冬物の動きも鈍い。
	百貨店(売場マ ネージャー)	来客数の動き	・今月の来客数は前年の同じ曜日と比べると、12%減と大幅に苦戦している。2度の台風通過もあったが、反動による来客数の増加もなく、厳しいままで推移している。月中旬に株価が低迷したこともあって、高級ブランドや宝飾品の販売額が前年比で20%以上減少するなど、前年の消費税増税前の駆け込み需要による盛り上げりを差し引いても、厳しい状況である。

百貨店（営業企画）	来客数の動き	・入店客数は8月が前年比で2.9%減、9月が5.1%減と悪化している。個人消費の回復が鈍く、欧州の景気低迷や為替の急変といった不安要素も多い。
百貨店（売場マネージャー）	それ以外	・来客数、客単価共に悪化傾向であり、特に紳士、婦人靴は厳しい。
百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・家庭用品の動きが徐々に厳しくなり、客1人当たりの買上数は微減傾向にある。買上時期も、何か特典のあるタイミングに集中している。
スーパー（経営者）	単価の動き	・今月に入って客単価がかなり低下している。100～300円の商品は動いているが、それ以上の価格の商品は動きが非常に悪い。
スーパー（経営者）	単価の動き	・野菜類は単価が昨年比で大幅に下がっているが、必要な物だけを買う動きが定着しているため、販売点数が伸びない。肉類でも、単価が高い牛肉の伸びが8月以降は徐々に低下しており、豚肉、鶏肉にシフトしている。一方、加工食品類は円安や原材料高で各社から値上げ表明があるものの、競合他社を含めて店頭価格は確実に下がっている。実質賃金が伸びないなか、客の生活防衛意識を強く感じる。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の減少が続くなど、消費税増税を含む影響が少しずつ出てきている。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数の前年比が96%と、これまでの98%程度から下落気味である。
スーパー（広報担当）	来客数の動き	・節約志向が定着したことに加え、物価上昇で買い控え傾向がより顕著になっている。
スーパー（管理担当）	来客数の動き	・台風の上陸が多く、週末に重なったこともあり、来客数は激減している。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・台風などの影響で週末の来客数が伸び悩んでいる。
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・異常気象も影響して季節商品の動きが悪いほか、客の財布のひもが固い。故障しない限り、家電製品を買わない客が増えている。
家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・消費の冷え込み感が広がっており、スマートフォンの新製品の発売も大きな起爆剤にはなっていない。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・9～10月の売上は、前年、一昨年よりも減少している。
乗用車販売店（営業企画）	来客数の動き	・来客数が前年比で90%と落ち込んでおり、消費税の再増税の動きを警戒していると感じる。
住関連専門店（店長）	販売量の動き	・消費税率の引上げから半年が経過したが、売上が明らかにトーンダウンしている。物価の上昇で明るい見通しも立たないなか、消費者の節約傾向を肌で感じる。
その他小売【インターネット通販】（企画担当）	お客様の様子	・値引きでの販促による効果が期待を下回ったほか、買上単価の低下も目立っている。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・人事異動などの動きが例年よりも少なかった影響か、夜の団体予約が少ない。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・経費削減のため、インターネットでの販促を縮小し始めた影響が大きく出ている。
都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・客室単価や稼働率は共に上がっているが、宴会の件数、金額は悪化している。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・国内旅行は、速度の遅い台風が3連休を襲い、交通網も乱れたことでキャンセルが多発した。海外旅行も円安の影響が徐々に出てきている。エボラ熱やイスラム国の動向を気にする人も若干出始めている。
旅行代理店（店長）	競争相手の様子	・来店する客が少なくなっている。
旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・エボラ出血熱やイスラム国、御嶽山など、旅行環境に悪影響を及ぼす事象が発生しており、実際にその理由でキャンセルする客もみられるなど、状況は悪くなっている。
タクシー運転手	お客様の様子	・日に日に悪くなっているような状態で、市内でも客が目立つ日はない。
競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は9,657円で、3か月前は9,729円であった。

	その他サービス [保険代理店] (経営者)	お客様の様子	・業績の良い企業は昨年から引き続き順調であるが、どちらともいえない状況であった企業の業績が頭打ちになっている。個人についても、大きな消費は一部の富裕層のみである。国の対策も一定規模以上の企業に対するものが中心で、小規模企業、零細企業は切り捨てられている感がある。税収効果を考えると、零細企業は対象外という考え方も分かるが、経済が崩壊する原因にもなる。	
	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・新築分譲マンションは、建築費の高騰に伴って販売価格を上げざるを得ないが、多くの物件は売行きが鈍ってきている。	
	その他住宅投資 の動向を把握 できる者[不動産 仲介](経営 者)	お客様の様子	・不動産の取引件数は減少しているように感じる。	
悪く なっている	一般小売店[時 計](経営者)	単価の動き	・今年に入って一番悪い売上となっている。大型の台風で2度も休業を余儀なくされるなど、自然現象の影響があったにせよ、人の気持ちが消費に向いていないことを実感した。来客数は今年で一番悪いわけではないため、1人当たりの平均単価が落ちていることが原因であり、必要最低限の物をできるだけ安く提供することが求められている。	
	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・主婦は自分の衣服の購入を節約し、秋物は購入していない。	
	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・飲食店の売上は天候に左右されるが、今月は台風で2回も襲われ、来客数が減少している。取引先の魚屋からも、売上は良くないと聞いている。	
	タクシー運転手	競争相手の様子	・法人の無線予約が激減している。	
	その他非製造業 [民間放送] (従業員)	受注量や販売量 の動き	・スポットCMの需要がおう盛である。	
企業 動向 関連 (近畿)	やや良く なっている	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・秋の需要期を迎えているので、夏場よりも少しは良くなってきた。ただし、前年と比べると実績は下回っている。休日を中心に台風が発生し、買物にも影響が出ている。
		電気機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・ここしばらくは閉店などの動きが多く、雰囲気が悪くなっている。受注量や販売量はやや良くなっているものの、ここ数か月が悪過ぎたため、その反動と考えられる。
		電気機械器具製 造業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・引き合い件数や受注量が増えている。
		建設業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・10月に入り、土壌汚染調査が動き出してきた。太陽光発電は電力会社の受入保留問題の影響はあるが、堅調に動いている。
		経営コンサル タ	取引先の様子	・家電業界の取引先が中心であるが、ここしばらくは大手企業を含め、上昇傾向となっている。
	変わらない	食料品製造業 (営業担当)	受注価格や販売 価格の動き	・気温の低下により飲料水の売上が伸びない。前年比では販売価格が全体的に下がっているにもかかわらず、売上は伸びていない。
繊維工業(団体 職員)		受注量や販売量 の動き	・タオルの産地では最需要期を迎えているが、メインの年賀用タオルの需要が低調である。その一方、数量は少ないが、百貨店などのギフト用の新商品は活発に動いている。	
パルプ・紙・紙 加工品製造業 (経営者)		受注量や販売量 の動き	・調子の良い取引先と、調子の悪い取引先で差はあるものの、大きな変化はない。	
化学工業(管理 担当)		受注量や販売量 の動き	・関東地方からの建設材料関連の受注が回復している。	
プラスチック製 品製造業(経営 者)		受注量や販売量 の動き	・販売量、受注件数共に減少気味であり、特に機能性の高い製品の動きが悪いと感じる。	
金属製品製造業 (経営者)		受注量や販売量 の動き	・消費税増税の影響については、9月からは回復に転じる期待感があったが、10月に入っても荷動きは改善してこない。	
金属製品製造業 (管理担当)		受注量や販売量 の動き	・太陽光発電関連事業については、電力会社による買取の中断などにより、メガソーラーなどの産業用の出荷が大幅に削減すると思われる。事業の縮小も検討しなければならないが、建築関連全体では引き合いがきている。	

一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・顧客の設備投資の動きは悪くないが、実際の受注につながるまでには、まだ時間がかかりそうである。	
電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・製造業においては、消費税増税による影響が薄らいできているところが多い。	
電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・戸建住宅やマンション物件に関する受注量が依然として減少しており、消費税増税前の駆け込み需要の反動減が尾を引いている。	
輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・海外向け案件は、現地企業の技術力アップもあって受注競争が激化している。国内向け案件についても、増加の動きはみられるものの、中小企業の設備投資意欲はまだまだといった感がある。	
その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年の動きと変わらない。	
建設業（経営者）	競争相手の様子	・仕事量はますますであるが、技能労働者不足で工事に入れない同業者もある。技術者不足も深刻な状況である。	
建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・完成住宅の見学会を実施したところ、ある程度の来場者は集まったが、予算はいずれも低めである。	
輸送業（営業所長）	それ以外	・燃料費は少しずつ下がってきたが、運転手の確保が難しく、稼働率が下降気味である。	
通信業（管理担当）	それ以外	・スーパーなどでは、価格が下がらないだけでなく、商品に魅力が感じられず、購買意欲が高まらない。	
金融業（営業担当）	それ以外	・アベノミクスの効果が出ていない。中小企業の業況回復に時間がかかり過ぎている。	
金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・欧州の不景気が米国株に影響し、それによって日本の株価が乱高下している。早く日本企業の基礎的要因による株価の上昇を期待したい。	
不動産業（営業担当）	取引先の様子	・神戸から事業所が減少しており、その状態が続いている。事務所の需要の減少で、賃料や空室率の悪化につながり、社宅の需要もなくなってきている。不動産の賃貸事情が全般的に停滞しており、景気は底ばいの状態である。	
新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込収入の悪い状態が続いている。	
広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・紙媒体、インターネット媒体共に、受注が前年を下回っている。	
広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・このところは広告の出稿に大きな動きがみられない。	
経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・当社への業務依頼は増えているが、発注価格は低いままである。	
コピーサービス業（店長）	受注量や販売量の動き	・受注量はやや微増で推移しているが、全体として良くなったという実感はない。	
その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・10月に入り、駅ナカ店舗では秋冬商品が出そろったが、売行きは今一つである。特に、高額商品の売上が芳しくなく、土産品を中心に客単価が前年比で3～5%下がっている。	
その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後は、2か月ほど前に一時的な回復が感じられたが、最近では再び落ち込む動きが出てきている。	
その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	取引先の様子	・各得意先に値上げ申請をしているが、今のところは許可が得られないため、状況は厳しい。	
その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税率の引上げ後、不要不急の消費に関する販売状況の回復が鈍い。食品などの必需品の荷動きは堅調であるが、タオルや身の回り品といった商品は、客1人当たりの販売点数の減少傾向が続いている。	
その他非製造業〔商社〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新製品の投入に伴い、引き合いを含む受注案件が増加した。ただし、価格が厳しく、決して利益が出るわけではないため、景気そのものは以前と変わらない。	
やや悪くなっている	食料品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・小刻みの受注量になってきている。
	繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・消費を控える雰囲気が高まっており、得意先による催事の集客が難しくなっている。着物を着る機会も減少しているようである。
	出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	受注量や販売量の動き	・製造業の上場企業による印刷物や販促資材の発注量が減ってきており、住宅関連の受注も落ちてきている。大手電力会社からの受注は、部数が減っているものの、印刷物の種類は何とか確保できている。

	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が目にみえて悪くなってきている。	
	金属製品製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・ステンレス材の値上げ幅には、中小企業向けと大企業向けで大きな差があり、販売価格に転嫁できず採算が悪化している。	
	電気機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・遊技場関連では、新たな規制に関する風評が市場を滞らせる傾向が強く、今回もその流れがみられる。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・昨年の8割程度しか、家具が売れていない。	
	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・郊外のショッピングセンターの売上が伸びない。	
	その他サービス【自動車修理】（経営者）	受注量や販売量の動き	・在庫台数はあまり変わらないが、1台当たりの利益が少ない。	
	その他非製造業【電気業】（営業担当）	受注量や販売量の動き	・消費マインドが低下している。	
	悪くなっている	-	-	
雇用 関連 (近畿)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・受注から成約までの時間が短くなり始めている。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・3か月前に比べて新規の受注が多くなってきている。また、事務職の求人も増え、派遣期間も長期で安定した求人が増加している。求人の増加もあって、採用面では人材の確保が難しくなっているが、安定して働いている人が多いことも、需給のひっ迫につながっている。
		新聞社【求人広告】（担当者）	周辺企業の様子	・関西の地元企業による広告出稿状況が良い。
	学校【大学】（就職担当）	求人数の動き	・求人数の伸びは落ち着いてきたが、求人のために訪れる企業数が大幅に増加している。来春入社分についても、継続して採用活動を行う企業が増えている。	
変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・これから年末に向けて、本来はいろいろな動きが出てくる時期であるが、その気配がほとんどみられない。当社は政府関係の入札にも参加しているが、入札案件は昨年と比べ物にならないほど低調な動きであり、先行きが少々心配になってきている。	
	人材派遣会社（役員）	採用者数の動き	・金融機関の派遣社員を含む人材採用意欲は、昨年秋ごろにはNISA対応や危機管理対応、消費税増税関連で相当の募集があったが、今年度の後半からは潮が引くように採用数が減っている。他産業も含め、良い人材を求める状況は変わらないが、大量採用とまではいかない。	
	新聞社【求人広告】（営業担当）	求人数の動き	・一部の大手メーカーからは、臨時従業員の募集などの出稿は出てきているが、梅田や阿倍野エリアでの開発案件は落ち着いてきている。一方、チェーン展開している飲食業などでの求人難は続いているほか、大阪を中心としたホテルは好調であり、経験者を中心とした求人も活発である。	
	新聞社【求人広告】（管理担当）	求人数の動き	・様々な指標が景気の減速を示しているなかで、新聞の求人広告に関しては今月も明らかな変化はみられず、3か月前からの変化も感じられない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で5.6%増加した。業種別にみると、全体で大きな割合を占める製造業が15か月ぶりの減少となった。一方、卸売業や飲食業、サービス業などでは増加している。また、外国人観光客の増加に伴い、着物レンタルや写真撮影などに関する事業は好調のようである。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・今月の新規求人数は、前年、前月と比べて増加したものの、増えた業種は、医療・福祉や建設業の有資格者求人が中心となっている。	
	学校【大学】（就職担当）	周辺企業の様子	・求人数は増加しているが、企業からは、決して景気が上向いたからではないといった声がよく聞かれる。	
	学校【大学】（就職担当）	それ以外	・大阪港に入港するコンテナ船をみていると、少し大きな船が増えてきたようで、荷動きが活発になっていると感じられる。	

やや悪くなっている	人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・安定雇用を求める就職希望者が増え、派遣での就業に抵抗を示す求職者が増えている印象がある。
	アウトソーシング企業 (営業担当)	周辺企業の様子	・通信関連の企業を中心に、外注費や人件費の削減の動きが進んでいる。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で減少している。建設業や製造業などの多くの職種で減少するなど、増加が続いていた新規求人数は、ここへきて減少基調に転じている。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数が減少傾向にある。
	民間職業紹介機関 (職員)	求人数の動き	・建設関連が9割を占める日雇い求人業者による、早朝の来所数がわずかに減り、求人数の前年比も減少幅がやや拡大しつつある。
悪くなっている	-	-	-